

I 研究主題

？を見つけ、豊かな心で解決に向かう子供の育成

～各教科における言語活動の充実を旨として～

II 主題設定の理由

全校児童 35 名の本校は、1 年生、2 年生が単学級、3・4 年生、5・6 年生が複式学級となっている小規模校である。児童の約 7 割程度は児童福祉施設から通学しており、年度途中の転出入も多くみられる。全体的には明るく素直な気持ちをもっている児童が多く、全校遊びや縦割り班活動などで上級生が下級生の面倒を見るなど、学年に関係なく遊びや活動に取り組んでいる。

本校児童の特徴として、生育環境の影響もあり、精神的な幼さが見え隠れする。正しい言葉を使うことが苦手な児童が多い。また、与えられたことに疑問をもったり、友達が話していることが間違っているにもかかわらず指摘しない児童も多い。

このような実態を踏まえ、昨年度から『？を見つけ』を合言葉に、日常の授業で各教科における課題を児童がを見つけ、自然に疑問が出てくるような研究を進めてきた。『フランクな言葉を使った話し合い』、『前時の振り返りを生かす』ことで、主体的に授業に参加したり、自分の考えを表現することができる児童が増えてきている。一方で、それが一部の児童に限られてしまう現状もある。このような背景から、今年度も昨年度の取り組みを継続するとともに、より多くの児童が主体的に？を見つけられるような設定を教師側が工夫することと、児童が『わかる喜び』を味わえるように、児童の実態に合わせスモールステップで成功体験を積み上げていくことを意識して研究を進めていく。

III 目指す子供象

？を見つけ、みんなで練り合い、解決できる子

IV 研究の仮説・内容

仮説 1：課題発見力を高めることにより、何を考えれば正答にたどり着くことができるのかがわかるだろう。

課題発見力とは、現状を把握・分析し、問題を見つけていく力である。そもそも問題とは、

- ①発生型：すでに表面化していて、明確に見えている問題
- ②設定型：自ら目標設定し、達成するうえで発生する問題
- ③潜在的：まだ表面化していないけれど、これから発生する可能性がある問題。

と、定義されている。道徳で考えると、①②③ともにわかりやすいと考える。

視点 1：問題を把握する力を養う。

どの教科でも「今、何ができるといいのかわかるのか。」を自分たちで見つける力をつける必要がある。そのためには、前時（前回）に何を解決したのかわかっているのかを覚えていて、今、何を求められているのかを的確に見つけ出す力が必要になる。1 時間の導入部分に、前時（前回）の振り返りを入れることで、前時と本時を比較できることから問題を把握しやすくなるであろう。

仮説2：会話のキャッチボール力を高めることにより、練り合う素地を養うことができるであろう。

練り合うことの前提に、会話を繋げていくスキルが必要である。いかに簡潔に話すか、それをフラットに受け止めて、共感的あるいは批判的な意見を述べる力が必要になる。

視点2：情報を整理し簡潔に話す力と、相手の意見を聞き取りそれに繋げて会話を成立させる力を養う。

①情報を整理する力

話を聞く力のポイント

- A：相手の目を見る。
- B：話に興味を持っていることを態度で示す。相槌の種類、大きなリアクション、共感
- C：否定が少ない

②簡潔に話す力

説明する力のポイント

- A：結論から先に言う。～目的が明確になり、頭の中で整理しながら聞くことができる。
- B：話す1文を短く簡潔にする。～伝えたい内容を1文1文短く簡潔にすることで、不要な言葉がなくなる。
- C：聞き手の心情を観察する。～相手の表情を見ながら話すことで、別の言葉で言い直すことができる。
- D：話すテクニックを鍛える。～話すスピードや、抑揚、間に気をつけることで、相手に伝えたいことや考えて欲しいことを伝えることができる。

低学年～主語と述語をはっきり話す。（書く）

中学年～主語と述語と根拠を明確に話す。（書く）

高学年～5W1Hを意識し、よけいな単語を話さないよう意識しながら話す。（書く）

③相手の意見を聞き取りそれに繋げて会話を成立させる力

会話を成立させるポイント

説明をする側のポイントとしては、はい、いいえで答えられるクローズド・クエスチョンではなく、相手が話さなければならない話し方、オープン・クエスチョンを心がける。話の終わりに、「みんなはどう思う？」と付け加えることによって、聞き手を促すことにも繋がっていく。

説明を聞く側のポイントとしては、自分と同じ意見だと思ったら、同じ言葉を使った・似ている言葉で〇〇を使ったと話すことができる。違う意見であれば、そういう考えもあるんだ！（共感）でも・・・と、繋げて行くこととなる。また、相手の話を要約して会話を繋げると、相手も自分の話が伝わっていると安心感を覚えるだろう。

聞く・話す・処理を円滑に行うことが、会話のキャッチボール力を上げる基礎となる

会話を繋げるスキル『話型』（仮）

会話を繋げていくためには、『話す』『聞く』『繋げる』というスキルが必要になる。あらかじめ話すための方略を示すことで、会話のキャッチボール力を向上させることができる。

| 主に実施学年 | 内容 | 作戦 |
|--------|-----|---|
| 1・2年 | 比-ト | くりかえし作戦 Aさんの言ったことをくりかえします。～です |
| | 同調 | そうですね作戦 そうですね。たしかに～です。わたしも～だと思えます |
| | 理由 | どうしてか作戦 わたしは～だと思えます。どうしてかというと～だからです |
| | 質問 | おねがい作戦 Bさんの考えをくわしく知りたいので、もっとせつめいおねがいします |
| 3・4年 | 比較 | くらべる作戦 わたしが考える～と、Cさんの考える～は、～が同じで～がちがいます わたしの考えは、Dさんの考えとにていて（ちがって）～だと思えます |
| | 検討 | これはどう作戦 わたしの考えはどうでしょうか。Eさんの考えはどうでしょうか |
| | 吟味 | おうえん作戦 Fさんの言いたいことは、～だと思えます |
| 5・6年 | 深化 | ふかめる作戦 みんなが言っていることを合わせると、～な考え方もできると思えます |
| | 補充 | つけたし作戦 みんなが言っていることに、～をたすと良くなると思えます |
| | 統合 | まとめる作戦 みんなが言っていることは、つまり～ではないと思えます |

視点3：学年に応じた話し合う力

①比較力 ～自分の考えと比較しながら聞く力

②交流力の意図の明確化～方向づけ・学びの修正・解決・発表

低学年は「型」を意識した話し合い活動。

高学年はより話し合いを深める話し合い活動。

③交流力の形態の明確化～個人・ペア・グループ・全体

個人・ペア・グループ内での発言は、フランクな言葉遣いで。

全体の発表は、学習にふさわしい言葉で。

④交流の視点の明確化

交流の視点 A：個の自信を付けさせたい交流

B：自分と他者の違いを見つけたり考えるための交流

C：ある程度答えの内容を絞り込みたい交流

D：答を一つにまとめるための交流

視点4：潮路スタイルでの授業づくり

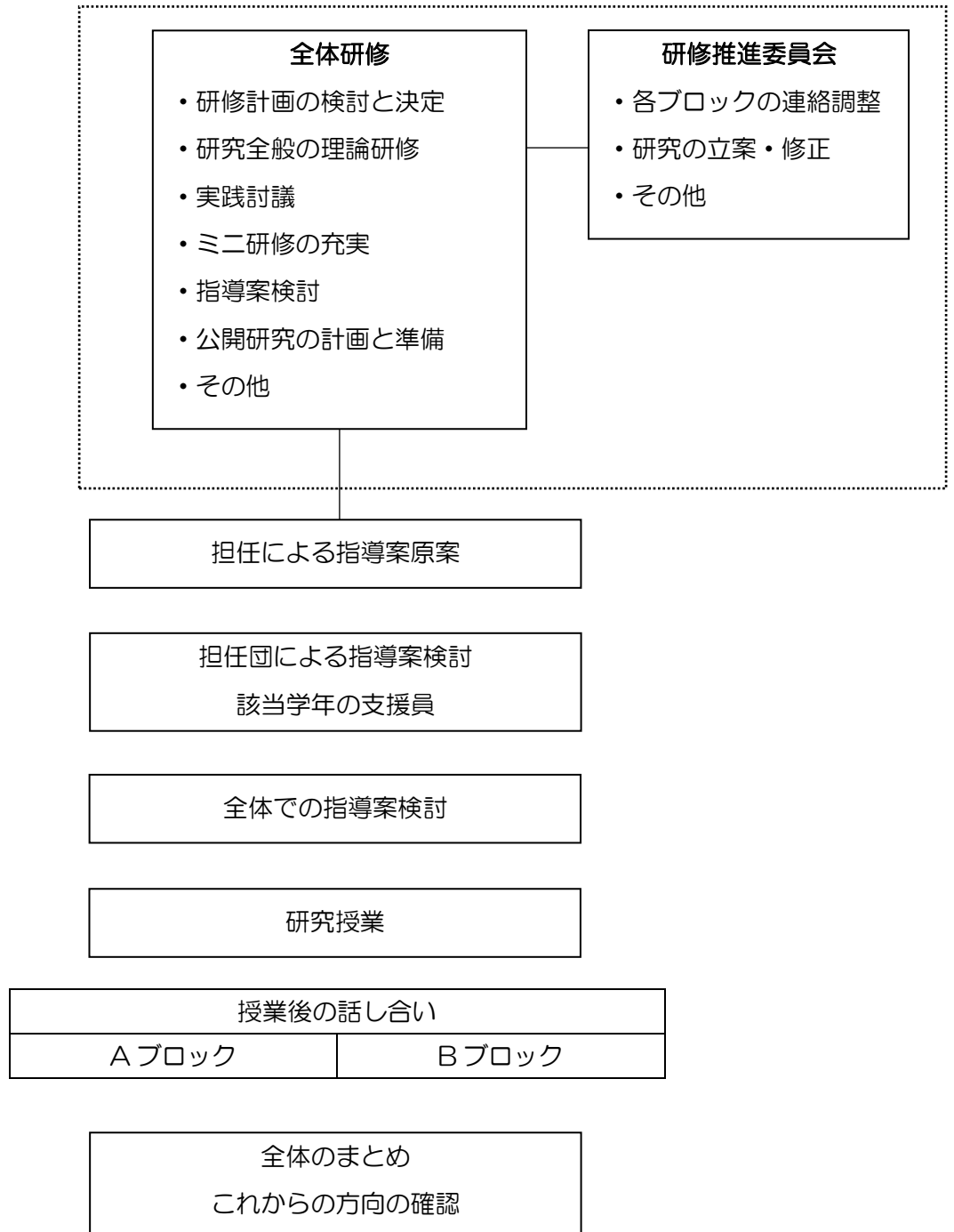
①単元計画の明確化～どの場面で、どんな？を見つけさせるのか、何を話し合わせるのか。

②教室環境 ～自力解決に必要な学習用語ヒントの掲示

V 推進計画

| 年次 | 段階 | 主な活動 |
|--------------|------------------|--|
| 1年次 令和5年度 | 研究の方向付け と実践検証 | ○研究概要の確認、修正 ○各学級での実践交流 ○理論研究 ○校内研究授業の実施と検証 ○他校研究会への参加 ○今年度の評価 と次年度への課題 |
| 2年次 令和6年度 | 研究のまとめと 課題の整理 | ○研究概要の見直し ○各学級での実践交流 ○理論研究 ○校内研究 授業の実施と検証 ○他校研究会への参加 ○研究のまとめと次年度の 研究にむけて |

VI 研究組織



【組織の構成】

◆研究推進委員会

研修係 ()

◆ブロック

| | |
|-------|--|
| Aブロック | |
| Bブロック | |

※支援員 3 名配置の際は低・高の支援学年を中心に配置

※ブロックの構成メンバーは、前期後期等で入れ替える

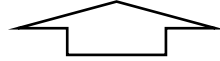
◆授業後のファシリテーターは輪番で行う。

Ⅶ 全体構造図

学校教育目標

豊かな心で学び続ける たくましい子の育成

- ◎ よく考え 進んで学ぶ子（知） ◎ 明るく 思いやりのある子（情）
- ◎ ねばり強く やり抜く子（意） ◎ すこやかで たくましい子（体）



重点目標：一人一人の可能性を広げ[探究]、学ぶ喜びを味わえる力[創造]の育成

研究主題

？を見つけ、豊かな言葉で解決に向かう子供の育成

～各教科における言語活動の充実を旨として～



目指す子供象

？を見つけ、みんなで練り合い、
解決できる子

仮説1：課題発見力を高めることにより、何を考えれば正答にたどり着くことができるのかがわかるだろう

研究仮説

仮説2：会話のキャッチボール力を高めることにより、練り合う素地を養うことができるだろう

| 視点1 | 視点2・3 | | 視点4 |
|--|--|--|---|
| <p>問題を把握する力を養う</p> <p>前時の振り返り 本時の問い</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>本時の課題</p> | <p>会話のキャッチボール力</p> <p>①情報を整理し簡潔に話す力</p> <p>②相手の意見を聞き取り、それぞれに繋げて会話を成立させる力</p> | <p>学年に応じた話し合う力</p> <p>①比較力</p> <p>②交流の意図の明確化</p> <p>③交流の形態の明確化</p> <p>④交流の視点の明確化</p> | <p>潮路スタイル</p> <p>①単元計画の明確化</p> <p>②教室環境</p> |

Ⅷ 年間計画

| 月 | 日 | | 研修内容 | ミニ研修 |
|---|----|---|--|---------------------|
| | | | 漢字ドリルの精選 学習用語の配布 言葉のたからばこシート | |
| 4 | 5 | ① | 研究内容、推進計画と今年度の全校での取り組み(全) 担任団 今年度の活動 おしよろスタイルについて(該当教諭) 情報教育からICT(該当教諭) 図書システムについて(該当教諭) | おしよろスタイル 算数科・国語科 |
| | | | | |
| | 18 | ② | 研究授業①担任団指導案検討 | ミニ研修①(全) |
| 5 | 16 | ③ | 研究授業①全体指導案検討 | ミニ研修②(全) |
| 6 | 20 | ④ | 研究授業①事後研 | |
| 7 | 4 | ⑤ | 研究授業②担任団指導案検討 | |
| | | | 研究の確認・道徳科 | |
| | | | 研究授業②担任団指導案検討 | |
| | | | 研究授業②全体指導案検討 | |
| | | | 研究授業②事後研 | |
| | | | 研修のまとめ・次年度に向けてアンケート | ミニ研修③(全) |
| | | | 研修のまとめ | ミニ研修④(全) |
| | | | 研修のまとめ・次年度に向けて | ミニ研修⑤(全) |
| 3 | | | 研究集録発刊 | |